

製品名: ラミニン α5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00405**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 400 kDa; Observed MW: 400 kDa

抗原情報

遺伝子名	LAMA5
別名	Laminin-10 subunit alpha; Laminin-11 subunit alpha; Laminin-15 subunit alpha
遺伝子 ID	3911
SwissProt ID	O15230
免疫原	抗血清はヒト LAMA5 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 2381-2430

背景

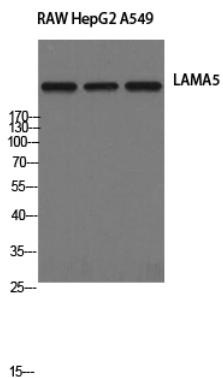
細胞外マトリックスの成分は、体全体の組織に無数の影響を及ぼします。特に、ヘテロ三量体細胞外糖タンパク質ファミリーであるラミニンは、腎臓、肺、皮膚、神経系など、多様な臓器の組織発達と健全性に影響を及ぼします。ラミニンは、他の細胞外マトリッ

クス成分と相互作用することにより、胚発生中に細胞の組織への接着、移動、および組織化を仲介すると考えられています。ラミニンは、 α 、 β 、および γ 鎖のヘテロ三量体複合体として機能し、各鎖タイプは異なるタンパク質サブファミリーを表します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ラミニン鎖の α サブファミリーに属し、基底膜の主要成分です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっていますが、そのうちの1つの完全長の性質は決定されていません。

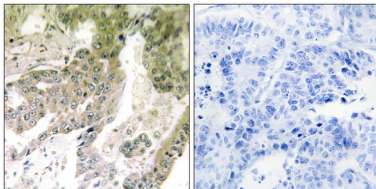
研究分野

シグナル伝達

画像データ



ラミニン アルファ 5 抗体を使用した RAW、HepG2、A549 溶解物中のラミニン アルファ 5 のウェスタン ブロット分析。



LAMA5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用しました。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプルです。